



畑作・野菜・花き生産情報 第5号

令和3年8月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎共通事項：台風や大雨に備え、ほ場や施設周辺にある排水溝の点検や整備のほか、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの排水対策を徹底しよう！
- ◎大豆は紫斑病やマメシンクイガの防除を徹底しよう！
- ◎ながいも等の野菜の生育は順調です。品目に応じて病害虫防除を徹底しよう！
- ◎秋ギクの生育は概ね順調です。収穫まで適正な温度管理を徹底しよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

ア 生育は順調であるが、一部、なびき倒伏や立枯性病害が発生しているほ場が見られる。

イ ベと病と食葉性害虫による食害が見られる。

表-1 大豆の生育状況（8月10日調査）

| 場所 | 年次 | は種期 (月日) | 出芽期 (月日) | 開花期 (月日) | 草丈 (cm) | 主茎長 (cm) | 葉数 (枚) | 分枝数 (本) |
|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|----------------|----------------|---------------|
| 農林総合 研究所 (黒石市) | 本年 (平年差・比) | 5/26 (1日遅) | 6/3 (2日早) | 7/25 (2日早) | 92.1 (103%) | 57.0 (103%) | 14.8 (+1.3) | 3.0 (+0.3) |
| | 平年 | 5/25 | 6/5 | 7/27 | 89.7 | 55.5 | 13.5 | 2.7 |
| | 前年 | 5/26 | 6/3 | 7/25 | 82.5 | 50.5 | 14.0 | 2.7 |
| 野菜研究所 (六戸町) | 本年 (平年差・比) | 5/14 (1日早) | 5/22 (3日早) | 7/20 (6日早) | 121.3 (115%) | 78.1 (118%) | 15.6 (+1.6) | 3.1 (+0.5) |
| | 平年 | 5/15 | 5/25 | 7/26 | 105.8 | 66.0 | 14.0 | 2.6 |
| | 前年 | 5/15 | 5/28 | 7/27 | 116.4 | 74.5 | 14.6 | 1.7 |
| 藤崎町 (西中野目) | 本年 (平年差・比) | 6/3 (±0日) | 6/11 (2日早) | 7/23 (6日早) | 103.4 (124%) | - | 12.3 (-0.9) | - |
| | 平年 | 6/3 | 6/13 | 7/29 | 83.6 | - | 13.2 | - |
| | 前年 | 5/30 | 6/7 | 7/25 | 105.4 | - | 14.2 | - |
| 五所川原市 (金木町嘉瀬) | 本年 (平年差・比) | 6/10 (5日遅) | 6/20 (7日遅) | 8/1 (1日遅) | 80.7 (102%) | - | 13.4 (+1.1) | - |
| | 平年 | 6/5 | 6/13 | 7/31 | 78.9 | - | 12.3 | - |
| | 前年 | 6/6 | 6/13 | 8/3 | 52.4 | - | 10.7 | - |
| 十和田市 (切田) | 本年 (平年差・比) | 6/4 (2日早) | 6/10 (5日早) | 7/28 (7日早) | 105.6 (129%) | - | 14.7 - | - |
| | 平年 | 6/6 | 6/15 | 8/4 | 81.7 | - | - | - |
| | 前年 | 6/6 | 6/11 | 8/3 | 98.0 | - | 9.0 | - |

注) ①品種は「おおすず」

注) ②平年値は、農林総合研究所が過去15か年、野菜研究所が過去14か年、藤崎町が過去10か年、五所川原市が過去10か年（うち葉数はH23、H24を除く）、十和田市が過去20か年の平均値

注) ③調査日：農林総合研究所は8月9日

(2) 今後の留意点

- ア 紫斑病は、開花期後20～40日の間に防除する。なお、チオファネートメチル剤、ベノミル剤、アゾキシストロビン剤に対する耐性菌が発生しているため、薬剤の選択には注意する。アゾキシストロビン剤の効力が低下していない場合は、QoI剤（FRACコード：11、アミスター20フロアブル等）の使用を1作につき1回までとする。また、耐性菌の新たな発生や発生地点の拡大を回避するため、連年使用せず、2～3年に1回の使用にとどめる。
- イ ツメクサガ、ウコンノメイガ等の食葉性害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ウ マメシクイガの防除を次により徹底する。

| 散布時期 | 薬剤の種類 |
|--|--|
| 8月第6半旬～9月第1半旬に1回散布（ただし、多発生の場合は、8月5半旬に1回目、7日後に2回目を散布） | トクチオン乳剤、パーマチオン水和剤、トレボン乳剤、トレボンMC、トレボン粉剤DL、アミスタートレボンSE、アディオオン乳剤、アグロスリン乳剤、モスピランSL液剤、モスピラン顆粒水溶剤、プレバゾンフロアブル5、ベネビアOD、グレーシア乳剤、トライトレボン粉剤DL、トレボンスカイMC |
| 9月第1半旬に1回目、その7日後に2回目を散布 | エルサン乳剤、スミチオン乳剤、ダズバン乳剤40、スミチオンベルコート粉剤DL、エルサン粉剤2、ダイアジノン粒剤5、スミトップM粉剤 |

注) 登録内容は令和3年8月11日現在

- エ 乾燥している場合は、落花や落莢を防ぐため、うね間かん水を行う。
- オ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

2 小麦（は種の準備）

- (1) は種が早いと生育が進み過ぎて雪腐病の発生を助長し、遅いと越冬前の生育量が不足するので、は種適期である9月15～25日に確実に種できるようなほ場を準備する。
- (2) ほ場の団地化を図り、明きよや弾丸暗きよなどで十分な排水対策を行う。
- (3) 土壌分析を行い、酸度矯正が必要な場合は、苦土石灰等により土壌改良を行う。
- (4) 紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、薬剤による種子消毒を行う。

野菜

(根菜類)

1 ながいも

(1) 生育状況

- ア 地上部、地下部いずれも平年を上回っており、生育は順調であるものの、8月9日からの大雨の影響で、一部穴落ちが見られている。
- イ 病虫害は、葉渋病、ナガイモコガの発生がみられる。

表-2 ながいもの生育状況 (8月10日現在)

| 場所 | 年次 | 植付期 (月日) | 萌芽 揃期 (月日) | つるの ネット頂 到達日 (月日) | 8月10日 | | | |
|----------------|---------------|---------------|------------------|----------------------------|-----------------|----------------|-----------------|----------------|
| | | | | | 茎葉重 (g) | いも長 (cm) | いも重 (g) | いも径 (mm) |
| 野菜研究所 (六戸町) | 本年 (平年差・比) | 5/25 (±0日) | 6/18 (6日早) | 7/17 (3日早) | 281.9 (111%) | 42.3 (127%) | 200.3 (177%) | 36.7 (109%) |
| | 平年 | 5/25 | 6/24 | 7/20 | 253.2 | 33.4 | 113.4 | 33.8 |
| | 前年 | 5/25 | 6/25 | 7/23 | 265.5 | 34.7 | 123.2 | 35.7 |
| 五戸町 (上市川) | 本年 (平年差・比) | 5/3 (9日早) | 6/10 (5日早) | 7/7 (1日早) | — (—) | 60.0 (132%) | 278.7 (152%) | 36.9 (103%) |
| | 平年 | 5/12 | 6/15 | 7/8 | — | 45.5 | 183.9 | 36.0 |
| | 前年 | 5/5 | 6/11 | 7/10 | — | 49.0 | 269.0 | 41.6 |
| 東北町 (野田頭) | 本年 (平年差・比) | 5/12 (2日早) | 6/2 (5日早) | 7/4 (8日早) | — (—) | 46.5 (129%) | 459.3 (345%) | 51.4 (160%) |
| | 平年 | 5/14 | 6/7 | 7/12 | — | 36.0 | 133.2 | 32.2 |
| | 前年 | 5/14 | 6/10 | 7/10 | — | 29.8 | 153.7 | 30.7 |

- 注) ①平年：野菜研は平成30～令和2年の3か年の平均値
 五戸町は平成14～令和2年の19か年の平均値
 東北町は平成20～令和2年の13か年の平均値
- ②種子：野菜研は園試系6の1年子(90～110g)ガンク切除
 (ガンク切除時期は植付30日前、前年までは植付15日目の頂芽切除)
 五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除
 東北町は庄司系の1年子(80～120g)頂芽付
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)
 五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)
 東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)

(2) 今後の留意点

- ア 8月20日以降の追肥は、茎葉の過繁茂や平いもの発生を助長するおそれがあるため行わない。
- イ 葉渋病、炭疽病の防除を徹底するとともに、ナガイモコガ、アブラムシ類などの害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ウ 採種ほ場では、ウイルス病の伝搬を防ぐためにアブラムシ類の防除を徹底する。
- エ 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- オ 植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

2 にんにく

(1) ほ場の準備

- ア イモグサレセンチュウなどの病害虫が発生していないほ場を選ぶ。
- イ 外部からの土壌病害虫の持ち込みを防ぐため、作業は種苗増殖ほ場から行う。
- ウ 堆きゅう肥や土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用し、必要量以上に投入しない。
- エ 緑肥作物は、少なくとも植付けの30日前にすき込み、石灰窒素を10a当たり40kg施用し、ロータリー耕を3回程度行う。
- オ 転作田など排水の悪いほ場では、過湿による病害の多発や生育不良を防ぐため、明きよの設置やサブソイラによる弾丸暗きよなどの排水対策を実施するほか、高うね栽培とする。

(2) 種子の準備

- ア 種球の保管中に20℃以下に長時間遭遇すると萌芽・発根が早まるため、室温を概ね20℃以下にならないように管理する。
- イ イモグサレセンチュウが発生したほ場のりん球は、種球として絶対に使用しない。
- ウ ネギアザミウマ、チュールリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- エ チュールリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病を対象とした種子消毒を徹底する。

3 夏だいこん

(1) 生育状況

- ア 葉長及び葉数は平年並で、根重は平年を大幅に上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫の発生は、ほとんどみられない。

表-3 夏だいこんの生育状況（8月10日現在）

| 場 所 | 年 次 | は種期 (月日) | 8月10日 | | |
|---------------|---------|-------------|------------|-----------|-----------|
| | | | 葉長 (cm) | 葉数 (枚) | 根重 (g) |
| 平川市 (善光寺平) | 本 年 | 7/2 | 31.9 | 18.3 | 344 |
| | (平年差・比) | (1日遅) | (100%) | (99%) | (190%) |
| | 平 年 | 7/1 | 31.9 | 18.4 | 181 |
| | 前 年 | 7/4 | 32.2 | 20.5 | 107 |

注) ①平年：平成29年～令和2年の4か年の平均値
 ②品種：貴夏（前年は秀夏）

(2) 今後の留意点

- ア 生育状況を確認しながら適期に収穫する。
- イ 軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ア 地上部、地下部とも平年を上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫の発生はみられない。

表-4 秋にんじんの生育状況（8月10日現在）

| 場 所 | 年 次 | は種期 (月日) | 8月10日 | | | |
|--------------|---------|-------------|------------|-----------|------------|-----------|
| | | | 葉長 (cm) | 葉数 (枚) | 根径 (mm) | 根重 (g) |
| 平川市 (大木平) | 本 年 | 6/18 | 35.2 | 6.5 | 14.2 | 10.5 |
| | (平年差・比) | (2日早) | (145%) | (105%) | (126%) | (150%) |
| | 平 年 | 6/20 | 24.2 | 6.2 | 11.3 | 7.0 |
| | 前 年 | 6/20 | 31.9 | 7.5 | 11.6 | 5.6 |

注) ①平年：平成9年～令和2年の24か年の平均値
 ②品種：向陽2号

(2) 今後の留意点

- ア 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 草丈は平年をやや下回っているが、葉数は平年を上回っており、生育は順調である。
- イ 病害はみられないが、アブラムシ類の発生がみられる。

表－5 ごぼうの生育状況（8月10日現在）

| 場所 | 年次 | は種期 (月日) | 8月10日 | |
|---------------|--------------------------------|--------------|----------------|---------------|
| | | | 草丈 (cm) | 葉数 (枚) |
| 三沢市 (三沢猫又) | 本年 (<small>平年差・比</small>) | 5/1 (1日遅) | 112.6 (94%) | 3.3 (114%) |
| | 平年 | 4/30 | 120.1 | 2.9 |
| | 前年 | 4/24 | 112.3 | 3.0 |

注) ①平年：平成23～令和2年の10か年の平均値

②品種：柳川理想

(2) 今後の留意点

- ア 黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類等の発生に注意し、防除を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ア 津軽地域の4月下旬定植では、11段花房の開花期が平年より3日早く、県南地域の5月中旬定植では、9段花房の開花期が平年より2日早く、生育は進んでおり、概ね順調である。
- イ 7月中下旬の高温、乾燥の影響で、落花や尻腐れ果、軟果等の障害が見られる。
- ウ 害虫は、アザミウマ類、タバコガ類、コナジラミ類の発生がみられる。

表－6 トマトの生育状況（8月10日現在）

| 場所 | 年次 | 定植期 (月日) | 5段果房 | | 7段果房 | | 9段果房 | | 11段果房 | |
|------------------|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|
| | | | 開花期 (月日) | 着果数 (個) | 開花期 (月日) | 着果数 (個) | 開花期 (月日) | 着果数 (個) | 開花期 (月日) | 着果数 (個) |
| 五所川原市 (金木町嘉瀬) | 本年 (<small>平年差・比</small>) | 4/28 (4日早) | 6/12 (2日早) | 2.6 (104%) | 6/28 (3日早) | 3.1 (107%) | 7/14 (4日早) | 3.3 (127%) | 7/30 (3日早) | — (—) |
| | 平年 | 5/2 | 6/14 | 2.5 | 7/1 | 2.9 | 7/18 | 2.6 | 8/2 | 2.0 |
| | 前年 | 5/2 | 6/13 | 2.7 | 7/2 | 2.9 | 7/20 | 2.8 | 8/3 | 1.8 |
| 三戸町 (斗内) | 本年 (<small>平年差・比</small>) | 5/11 (4日早) | 6/29 (5日早) | 2.6 (104%) | 7/20 (2日早) | 2.5 (114%) | 8/9 (2日早) | — (—) | — (—) | — (—) |
| | 平年 | 5/15 | 7/4 | 2.5 | 7/22 | 2.2 | 8/11 | 2.0 | 9/2 | 1.4 |
| | 前年 | 5/11 | 7/8 | 1.3 | 7/29 | 1.9 | 8/15 | 1.9 | 9/3 | 1.2 |

注) ①平年：五所川原市は本年度から設置場所・担当農家を変更したため、平年(H29～R2)、前年は参考値
三戸町は平成20～令和2年の13か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：キングバリア）、三戸町はりんか409（自根）

(2) 今後の留意点

ア 温度管理等

- (ア) 肩換気などにより適正な温度管理を徹底する。また、生育に合わせたかん水、肥培管理により草勢の維持に努める。
- (イ) 9月以降は夜温の低下とともに裂果の発生が多くなるので、土壤水分が極端に変化しないように水管理を徹底する。

イ 摘心

- (ア) 雨よけ栽培では、例年9月5日頃までに開花した花房が収穫できるので、開花直前の花房の上にある葉を2枚残して摘心する。

ウ 病害虫防除

- (ア) 灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の防除を徹底するとともに、タバコガ類、コナジラミ類の早期発見・早期防除に努める。

7 ねぎ

(1) 生育状況

- ア 草丈、茎径とも平年を大幅に上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫は、さび病及びアザミウマ類の発生がみられる。

表-7 ねぎの生育状況（8月10日現在）

| 場 所 | 年 次 | は種期 (月日) | 定植期 (月日) | 8月10日 | |
|--------------|----------------|---------------|----------------|-----------------|----------------|
| | | | | 草丈 (cm) | 茎径 (mm) |
| 十和田市 (洞内) | 本 年 (平年差・比) | 2/3 (13日早) | 4/12 (17日早) | 112.5 (119%) | 27.7 (130%) |
| | 平 年 | 2/16 | 4/29 | 94.6 | 21.3 |
| | 前 年 | 2/5 | 4/28 | 112.0 | 25.4 |

注) ①平年：平成17～令和2年の16か年の平均値

②品種：夏扇パワー

(2) 今後の留意点

ア 管 理

- (ア) 追肥・培土は、生育の進み具合に合わせて適期に行う。なお、培土は、葉の分岐部の下までを目安に行う。
- (イ) 軟腐病を回避するため、培土は地温が低い早朝に行うようにし、雨後の土壤水分の高い時は実施しない。
- (ウ) 最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。
- (エ) ほ場の停滞水は生育不良の原因となるため、排水対策を徹底する。

イ 病害虫防除

- (ア) ベと病、軟腐病、さび病、黒斑病、アザミウマ類など病害虫の防除を徹底する。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 今後の作業

ア 病虫害防除

白さび病の予防防除を行うとともに、アザミウマ類、ヤガ類等の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

イ 収穫

2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により切前が異なるため事前に確認する。

涼しい時間帯に行い、切り口を乾かさないようにする。早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

ウ 親株の管理

収穫後の株を翌年の親株にする場合は、形質が優良な、病害に侵されていないものを残す。

親株は地際から約10cmの高さで刈り込み、直ちに追肥し、土寄せする。追肥量は、1アール当たり窒素成分で0.2～0.3kgを目安とする。

【参考（お盆向け作型の収穫時期）】

新郷村では平年より早まり、五所川原市では平年よりやや遅れたが、お盆向け作型としては適期に収穫された。

病虫害の発生はみられない。

表－8 夏秋ギクの収穫時期

| 場 所 | 年 次 | 品 種 名 | 定植期 | 収 穫 期 | | |
|-------|--------------|-------|----------------|-----------------|---------------|----------------|
| | | | | 始 | 盛期 | 終 |
| 新 郷 村 | 本 年 (平年差) | 精の一世 | 4月22日 (4日遅) | 7月26日 (11日早) | 8月4日 (9日早) | 8月15日 (6日早) |
| | 平 年 | 精の一世 | 4月18日 | 8月6日 | 8月13日 | 8月21日 |
| | 前 年 | 精の一世 | 4月27日 | 8月2日 | 8月7日 | 8月11日 |
| 五所川原市 | 本 年 (平年差) | 岩の白扇 | 4月14日 (1日遅) | 8月5日 (5日遅) | 8月7日 (4日遅) | 8月11日 (5日遅) |
| | 平 年 | 岩の白扇 | 4月13日 | 7月31日 | 8月3日 | 8月6日 |
| | 前 年 | 岩の白扇 | 4月15日 | 7月30日 | 8月6日 | 8月8日 |

注) ①平年：新郷村は平成26年～令和2年の7か年の平均値

五所川原市は平成30年～令和2年の3か年の平均値

②新郷村の生育観測ほは本年と前年、前々年以前でそれぞれ異なる農家ほ場に設置

2 秋ギク

(1) 生育状況

ア 津軽地域の7月上旬定植では、草丈は平年を下回っているものの、葉数は平年並、県南地域の6月下旬定植では、草丈、葉数いずれも平年（参考値）を大幅に上回っており、生育は概ね順調である。

イ 病虫害は、ハダニ類、アザミウマ類が散見される。

表－9 秋ギクの生育調査（8月10日現在）

| 場 所 | 年 次 | 品 種 名 | 定植期 | 草丈 (cm) | 葉数 (枚) | 備 考 |
|-------|-----|-------|---------------|-----------------|-----------------|-------|
| 新 郷 村 | 本 年 | 精の一世 | 6月30日 | 56.8 | 33.4 | 1本仕立て |
| | 平 年 | 精の一世 | 7月16日 | 21.4 | 15.2 | 1本仕立て |
| | 前 年 | 精の一世 | 7月15日 | 27.5 | 18.4 | 1本仕立て |
| 五所川原市 | 本 年 | 神 馬 | 7月8日 (3日遅) | 31.3 (81.5%) | 19.3 (98.5%) | 2本仕立て |
| | 平 年 | 神 馬 | 7月5日 | 38.4 | 19.6 | 2本仕立て |
| | 前 年 | 神 馬 | 7月2日 | 48.0 | 19.6 | 2本仕立て |

注) 平年：新郷村は令和元～2年の2か年の平均値で、前年までと設置場所・担当農家が異なるため参考値
五所川原市は平成22～令和2年の11か年の平均値

(2) 今後の作業

ア 芽かき

わき芽は、小さいうちにかき取る。

イ ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸びやすい品種は、ビーナイン顆粒水溶剤等を発らい期に散布する。効果が不十分な場合には摘らい期に2回目の散布を行う。

ウ 奇形花の発生を防ぐため、高温時には換気を十分に行い、必要に応じて循環扇や寒冷紗等を活用し、施設内温度を少しでも低く管理する。

エ 病虫害防除

白さび病の予防防除のほか、ヤガ類やアザミウマ類等の害虫が発生しやすい時期なので、早期発見・早期防除を徹底するとともに、ほ場周りの除草等、害虫が発生しにくい環境づくりに努める。

3 トルコギキョウ

(1) 今後の作業（これから収穫するトルコギキョウについて）

ア かん水

発らいまでは適宜かん水し、発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。

イ 温湿度管理

ハウス内が高温・過湿にならないように循環扇等を活用し、換気する。

ウ 側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、1番花も早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病虫害防除

アザミウマ類やオオタバコガの発生に注意し、防除を徹底する。

オ 収穫

涼しい時間帯に収穫し、速やかに鮮度保持剤による前処理を行う。

【参考（お盆向け作型の収穫時期）】

- ・お盆向けの作型では、収穫期は前年より1週間程度早まった。
- ・病虫害は、一部ほ場でオオタバコガの発生がみられた。

表-10 トルコギキョウの収穫時期

| 場 所 | 年 次 | 品 種 名 | 定植期 | 収穫始 | 収穫盛期 | 収穫終 |
|-------|-----|----------|-------|-------|-------|-------|
| 青 森 市 | 本 年 | 北斗星 | 4月10日 | 7月26日 | 7月28日 | 7月30日 |
| | 前 年 | 北斗星 | 4月7日 | 8月3日 | 8月5日 | 8月6日 |
| 田舎館村 | 本 年 | ボヤージュピノク | 4月19日 | 8月4日 | 8月5日 | 8月7日 |
| | 前 年 | ボヤージュピノク | 4月22日 | 8月7日 | 8月10日 | 8月13日 |

注) 平年：青森市は一昨年から品種が変更されたため、平年値なし
 田舎館村は本年から品種が変更されたため、平年値なし

畑作・野菜・花き生産情報第6号は令和3年9月17日発行の予定です。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、しっかり安全を確認しましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所と内容を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中！ ～元気な作物は健康な土が育みます～
 土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります！
 緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
 効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎令和3年度青森県農薬危害防止運動展開中（5月1日～8月31日）

農薬を使用する前には必ず最新の農薬登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。また、散布の際は周囲に飛散させないよう細心の注意を払いましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆しましょう。

市販されている除草剤のうち、「非農耕地専用除草剤」は、農作物等の栽培管理に使用できないので、注意しましょう。

農林水産省【農薬登録情報提供システム】

<https://pesticide.maff.go.jp/>

(独)農林水産消費安全技術センター【農薬登録情報・速報】

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月以上空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理の詳細はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。（青色申告の実施が要件）

<野菜のみ>

令和3年から、「農業経営収入保険」に加入した1年目に限り、「野菜価格安定制度」との同時加入が認められました。現在、価格安定制度に加入しており、収入保険に興味のある方は、ぜひ御検討ください。

また、収入保険の加入申し込みは随時受け付けていますが、今年から、農林水産省の共通申請サービスを利用することにより、自宅のパソコンなどからオンラインで申請できるようになりました。事務費の割引もありますので、これを機に加入をご検討ください。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

| | |
|------|--------------|
| 連絡先 | 農産園芸課 |
| | 稲作・畑作振興グループ |
| 県庁内線 | 5073 |
| 直通 | 017-734-9480 |
| | 野菜・花き振興グループ |
| 県庁内線 | 5076 |
| 直通 | 017-734-9485 |

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>